

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名	道央圏連絡道路(一般国道337号) <small>しんちとせ</small> 新千歳空港関連		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道千歳市平和 <small>ちとせ へいわ</small> 至：北海道千歳市 泉郷中央 <small>ちとせ いずみさとちゅうおう</small>				延長	9.2 km
事業概要	<p>道央圏連絡道路（一般国道337号）は、千歳市を起点として小樽市に至る延長約80kmの地域高規格道路であり、国際的な交流拠点である新千歳空港、特定重要港湾苫小牧港、重要港湾石狩湾新港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る重要な役割を果たす路線である。</p> <p>このうち新千歳空港関連は、平成元年に事業化され、整備が進められている延長約9.2kmの道路である。</p>					
H元年度事業化	H7年度都市計画決定		H2年度用地着手		H2年度工事着手	
全体事業費	約542億円		事業進捗率	80%	供用済延長	2.5 km
計画交通量	22,500台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 89/503億円 事業費：72/479億円 維持管理費：17/23億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 633/842億円 走行時間短縮便益：413/600億円 走行費用減少便益：173/188億円 交通事故減少便益：46/55億円	基準年 平成15年		
感度分析の結果	<p>事業全体について感度分析を実施</p> <p>交通量変動：B/C=1.8 (交通量+10%) B/C=1.5 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.6 (事業費+10%) B/C=1.8 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.5 (事業期間+20%) B/C=1.9 (事業期間-20%)</p>					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路（道央圏連絡道路）の位置づけあり） 円滑なモビリティの確保（第二種空港（新千歳空港）へのアクセス向上が見込まれる） <p style="text-align: right;">他5項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	<p>千歳市を始めとする関係5市3町の首長で構成される道央圏連絡道路整備促進期成会・関係6市1町3村の首長で構成される北海道石狩地方開発促進期成会より、毎年事業促進の要望を受けている。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> 平成4年度に新千歳空港ターミナルが供用開始 平成8年度に新千歳空港B滑走路が供用開始 北海道横断自動車道の千歳恵庭JCT～夕張IC間が平成11年10月に開通 					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>平成14年度までに、新千歳空港からJRを横断する区間のL=2.5kmを完成供用している。引き続き残り区間について、埋蔵文化財調査・用地補償を進め、工事の進捗を図る。</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見直し等	<p>引き続き用地補償及び工事を促進し、早期供用に努める。</p>					
施設の構造や工法の変更等	<p>再生材の活用、歩道設置箇所の見直し等によりコスト縮減を図っている。</p>					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	<p>以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。